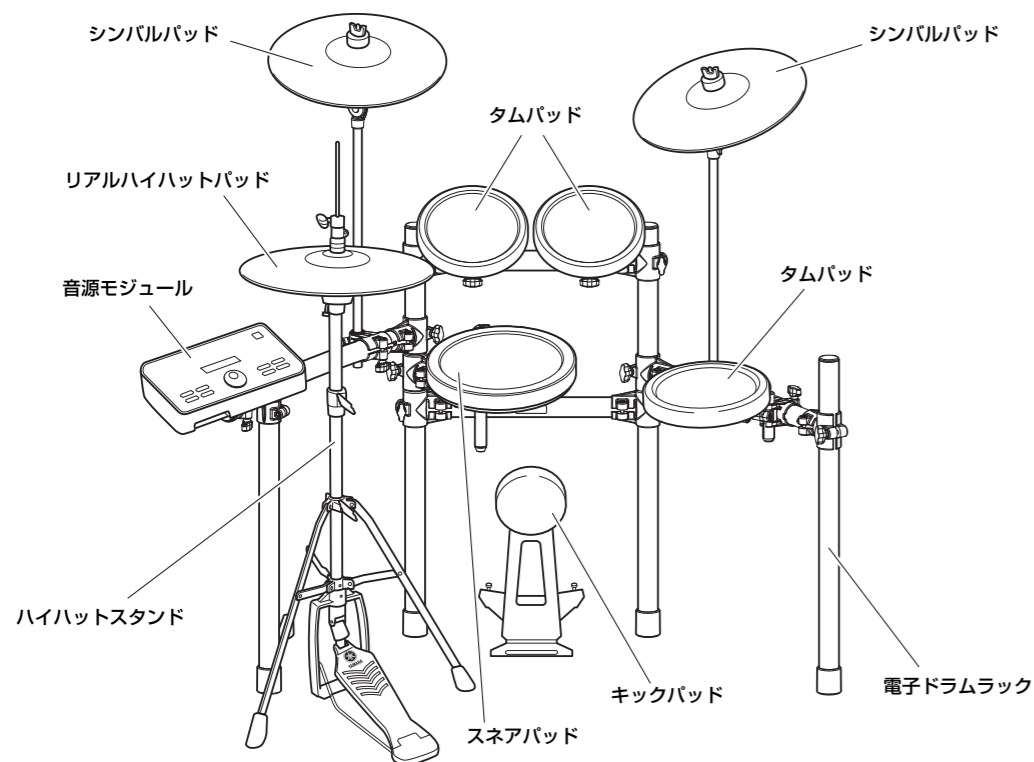


この説明書では、DTX532K/DTX562Kの標準的な組み立て方を説明します。下図のように組み立てと配線を行ない、電源を入れる前の段階までを説明します。

標準的な組み立て例



重要

- この説明書では、組み立てられた状態の電子ドラムラックRS502に対してパッドセットおよび音源モジュールを取り付ける方法を説明しています。あらかじめ電子ドラムラックRS502に同梱されている取扱説明書に従ってRS502を組み立てた上で、この説明書をお読みください。
- 同梱されているパッド類および電子ドラムラックRS502の保証につきましては、それぞれの取扱説明書に記載の保証書をご利用ください。

注記

別売のドラムマットがある場合には最初に床に敷いてください。ドラムマットが無い場合、床に傷がつくのを防ぐためハイハットスタンドHS650AおよびキックパッドKP65を扱うときは必ず床に梱包材の段ボールなどを敷いて組み立てを行なってください。

1

梱包箱の中身を確認します。

梱包箱を開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

DTX532K/DTX562Kの同梱品

- スネアパッド XP80 (1個)
- シンバルパッド PCY135 (2個)
- リアルハイハットパッド RHH135 (1個)
- RHH135用 スタンドベース (1個)
- RHH135用 ハイハットクラッチ (1個)
- 電子ドラムラック RS502 (1体)
- RS502 取扱説明書 (1冊)
- 音源モジュール DTX502 (1台)
- 電源アダプター (1個)
- モジュールホルダー (1個)
- 音源モジュール DTX502 (1台)
- 電源アダプター (1個)
- モジュールホルダー (1個)
- モジュールホルダー 止めネジ (2個)
- DTX502取扱説明書 (1冊)
- DTX502保証書 (1通)
- ハイハットスタンド HS650A (1台)
- キックパッド KP65 (1台)
- 9ch マルチケーブル (1組)
- ケーブルバンド (6本)
- RHH135用 ケーブルバンド (1本)
- チューニングキー (1個)
- PCY135用 回り止め金具 (2個)
- PCY135用 フェルト (2個)
- DTX532K/DTX562K組立説明書 (本書、1部)
- PCY100/135/155取扱説明書 (1冊)
- RHH135取扱説明書 (1冊)
- XP70/80取扱説明書 (1冊)
- KP65取扱説明書 (1冊)

DTX532Kのみの同梱品

- タムパッド TP70 (3個)
- クランプボルト (XP80用) (1個)
- ウイングボルト (TP70用) (3個)
- TP70取扱説明書 (1冊)

DTX562Kのみの同梱品

- タムパッド XP70 (3個)
- クランプボルト (XP70/XP80用) (4個)

2

電子ドラムラックRS502を組み立てます。

RS502の組み立て方につきましては、RS502に付属の組立説明書をご覧ください。

3

電子ドラムラックにパッド類、音源モジュールを取り付けます。

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

- ※ お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ※ パッドやラックに付属の組立説明書や取扱説明書も必ずお読みください。

記号表記について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- ⚠ 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
- 🚫 ～しないでくださいという「禁止」を示します。
- 🔒 「必ず実行」してくださいという強制を示します。

警告	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
⚠	けがをするおそれがありますので、小さいお子様が取り扱われる際は必ず保護者が付き添ってください。
⚠	シンバルホルダーやタムホルダーの先端部分はとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。
⚠	キックパッドやフットペダルに取り付けられているすれ防止用スパーは先端部分がとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。
⚠	この製品を設置される際、固定用のナット等はしっかりと締め付けてください。また、固定用ナット類をゆるめる際は急激にゆるめないでください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、スタンドの部品の落下、転倒などにより、けがの原因となります。
🚫	この製品を、不安定な場所(水平でない場所、くらついている台の上など)に設置しないでください。転倒、落下などにより、けがの原因となります。
⚠	この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き回しにはじゅうぶん注意してください。足を掛けて転倒するなど、けがの原因となります。
🚫	この製品を分解したり、改造したりしないでください。けがまたは故障の原因となります。
🚫	ラックに腰かけたり踏み台にしないでください。転倒したり壊れたりして、けがの原因となります。

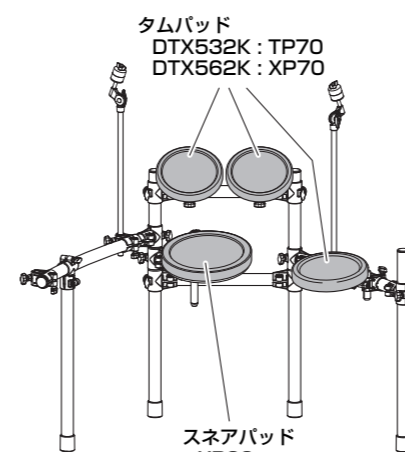
注意	この表示を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険のおそれがある内容を示しています。
⚠	クランプを調節する際、指に注意してください。指が挟まれてけがをするおそれがあります。
⚠	パイプの端面や内面及びネジの先端にご注意ください。尖った部分等で指にけがをするおそれがあります。
🚫	キックパッドやフットペダルの下に、手や足を入れないでください。挟まれてけがの原因となります。
🚫	電子ドラムラックには、アコースティックドラムを取り付けしないでください。クランプの破損や、ドラムの落下などで、けがをするおそれがあります。

注記(ご使用上の注意)

- ケーブルの抜き差しは必ずプラグ部分を持って行ってください。また、ケーブルの線の部分に重いものを乗せたり、とがったものが触れたりしないように注意してください。線の部分に無理な力がかかると断線などのトラブルの原因となります。
- この製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください。故障の原因となります。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、閉めきった車内など)や、湿気の多い場所(風呂場、雨天の屋外など)での使用、保管はしないでください。変形、変色、故障や性能劣化の原因となります。
- 製品を手入れするときは、ベンジンやシンナー、アルコール類は使用しないでください。製品を変色、変形させるおそれがあります。お手入れの際は、やわらかい布で乾拭きするか、水を含ませて固く絞った布を用いて汚れをふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を含ませた布を固く絞って汚れを拭き取り、そのあとで水を含ませて固く絞った布を用いて洗剤を拭き取ってください。

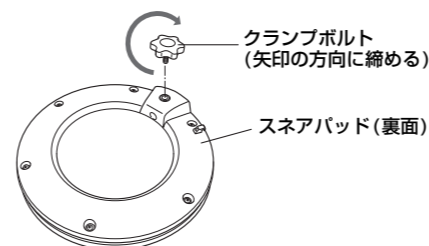
※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

スネアパッド/タムパッドの取り付け

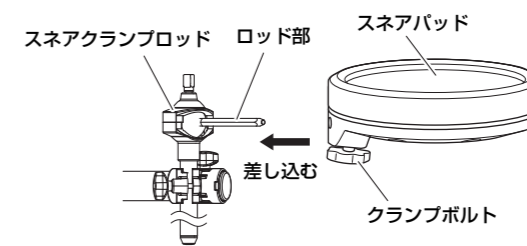


■ スネアパッドの取り付け

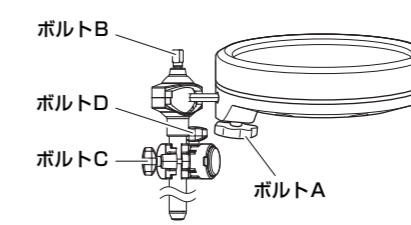
- スネアパッドにクランプボルトを軽く締めておきます。(5〜6回転程度)



- ラック上のスネアクランプロッドにスネアパッドを取り付けます。スネアクランプロッドのロッド部をスネアパッドの取り付け穴に深く差し込み、クランプボルトを締めてしっかりと固定します。

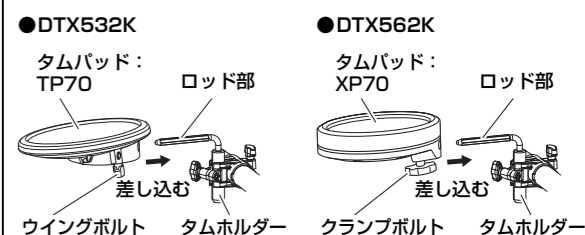


- スネアパッドの打面の高さや角度は、下図のボルトA〜Dをゆるめることで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとボルトを締めて固定してから次の調整を行なってください。

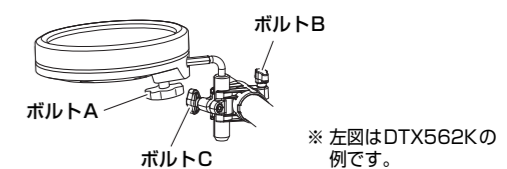


■ タムパッドの取り付け

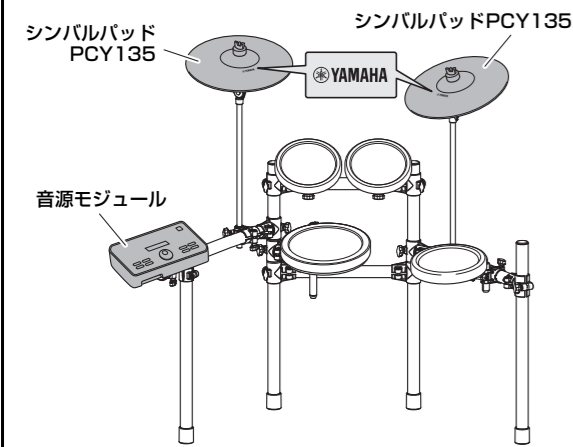
- スネアパッドと同様、3つのタムパッドそれぞれにボルト(DTX532K:ウイングボルト、DTX562K:クランプボルト)を軽く締めておきます。(5〜6回転程度)
- ラック上のタムホルダーにタムパッドを取り付けます。タムホルダーのロッド部をタムパッドの取り付け穴に深く差し込み、ボルトを締めてしっかりと固定します。



- タムパッドの打面の高さや角度は、下図のボルトA〜Cをゆるめることで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとボルトを締めて固定してから次の調整を行なってください。



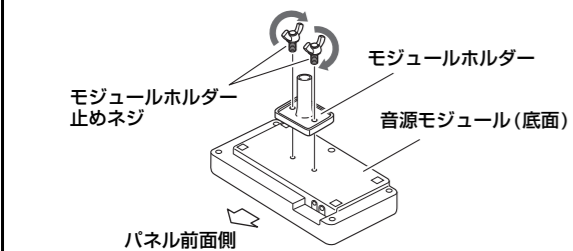
音源モジュールの取り付け/シンバルパッドの取り付け



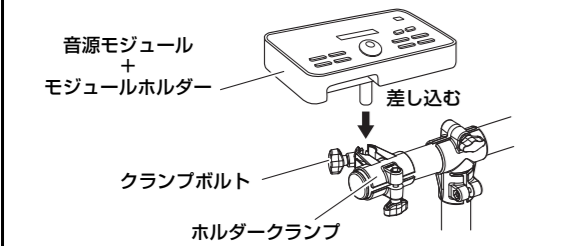
シンバルパッドのセンサーは、パッド表面のYAMAHAと書かれたロゴの辺りにあります。パッドの性能を十分にさせるよう、セッティングするときはYAMAHAのロゴの辺りを叩けるように向きを調節してください。(上図を参照)

■ 音源モジュールの取り付け

1. 音源モジュールに付属のモジュールホルダー止めネジを使って、音源モジュール底面にモジュールホルダーを取り付けます。

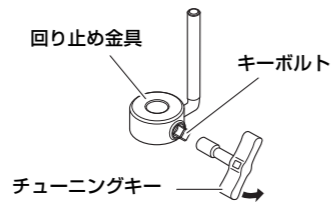


2. モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、クランプボルトを締めて固定します。

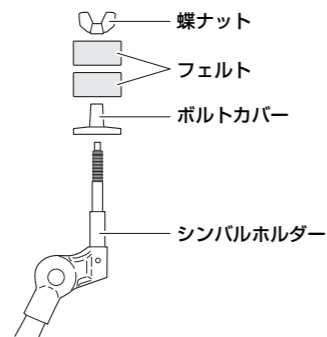


■ シンバルパッドの取り付け

1. 回り止め金具のキーボルトを、チューニングキーを使ってゆるめます。

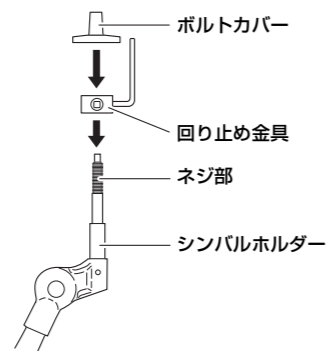


2. シンバルホルダーから、蝶ナット、フェルト(2個)、ボルトカバーを外します。

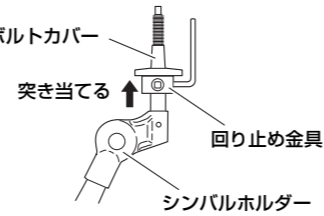


3. シンバルホルダーに回り止め金具を通します。
※ 手順1でキーボルトをゆるめる量が足りない場合、回り止め金具の穴にシンバルホルダーが通らないことがあります。キーボルトが外れない程度にゆるめてください。

4. ボルトカバーを取り付けます。
※ ボルトカバーは、回転させながらネジ部にねじ込み、しっかりと固定させます。



5. 下図のように、回り止め金具をボルトカバー下面に当てた状態にし、チューニングキーを使ってキーボルトを締め、固定します。



6. シンバルホルダーに、手順2でシンバルホルダーから外したフェルトを1つ通します。

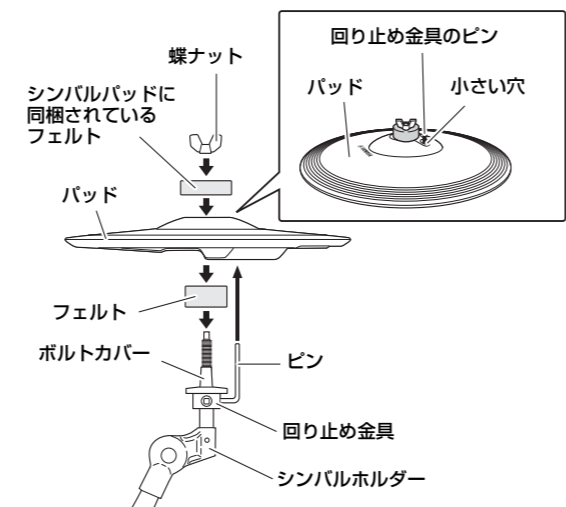
7. パッドを取り付けます。シンバルホルダーの先端をパッド中央の穴に通し、回り止め金具のピンをもうひとつの小さい穴に通します。

※ 回り止め金具のピンがシンバルパッドの小さい穴に十分に届いていない状態で演奏すると、ピンが穴から外れる可能性があります。回り止め金具は、必ず手順5で指定している位置に固定してください。

8. シンバルパッドに同梱されているフェルトを取り付けます。

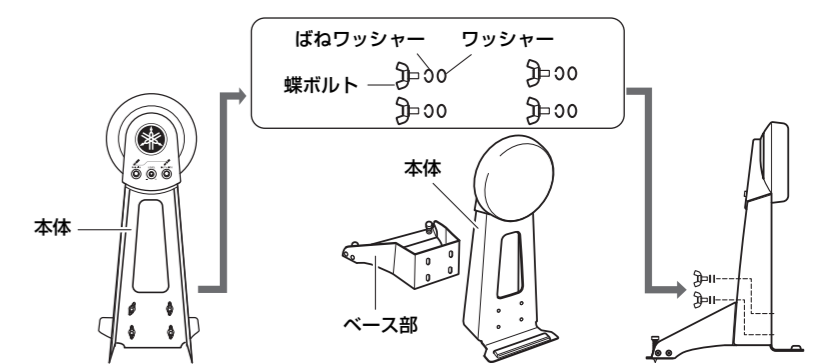
手順2でシンバルホルダーから外した、もうひとつのフェルトは使いません。

9. 蝶ナットを締めてパッドとシンバルホルダーを固定します。



キックパッドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
2. キックパッドの本体から蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをいったん外し、4組それぞれ外したままの順番で近くに置きます。
3. 右図のようにベース部を本体に組み付け、手順2で外した蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをベース部側から取り付けて固定します。



4. 本紙おもて面の『標準的な組み立て例』を参考に、ハイハットスタンドおよびキックパッドを配置します。

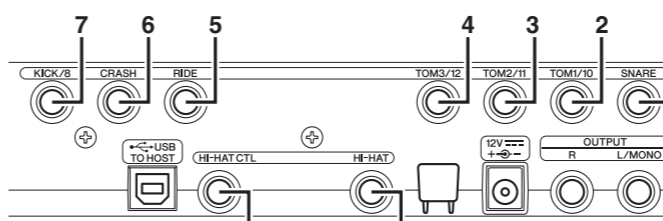
【注記】 別売のドラムマットがある場合には最初に床に敷いてください。ドラムマットが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐためハイハットスタンドおよびキックパッドの下に梱包材の段ボールなどを敷いてください。

5. パッドと音源モジュールを接続します。

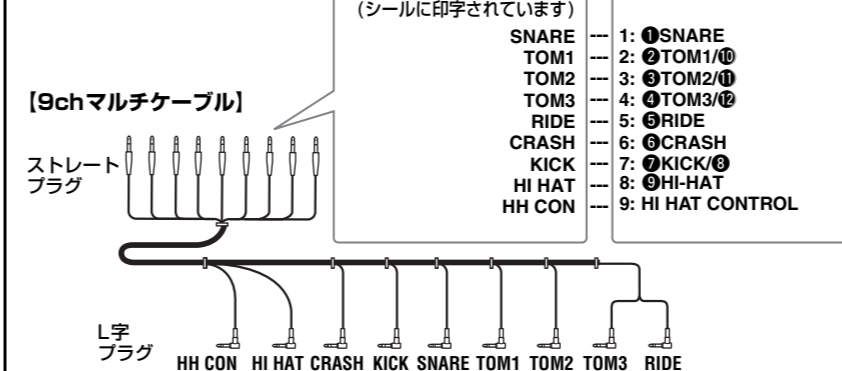
パッドの出力を音源モジュールのパッド入力に接続し、配線します。

1. 音源モジュールのリアパネルのトリガー入力端子(①SNARE~⑨HI-HAT、およびHI-HAT CONTROL端子)に、9chマルチケーブルのストレートプラグを差し込みます。
・標準セットアップでは、各プラグのシールに印字されているパッド名の記号に合わせて9chマルチケーブルを接続します。

【音源モジュールのリアパネル】

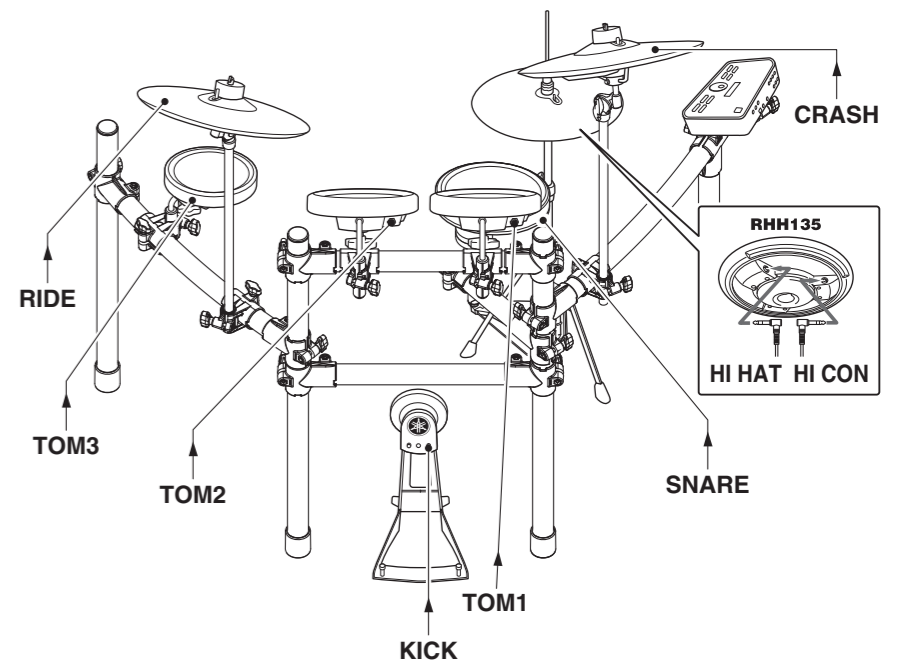


【9chマルチケーブル】



2. 9chマルチケーブルのL字プラグを各パッドの端子に差し込みます。

【パッドの接続端子の位置】



3. スネアパッドとタムパッドは、ケーブルが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

【注記】 コードフックに巻きつける際、ケーブルを極端に折り曲げないでください。ケーブルの断線の原因となります。

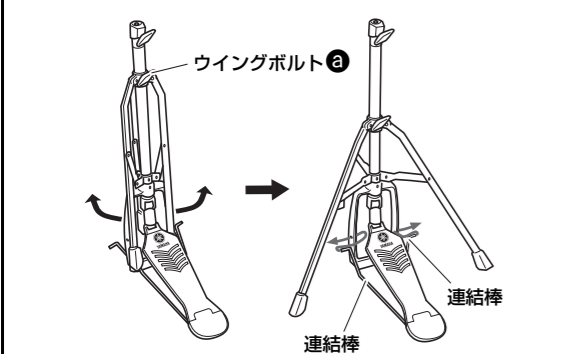
ハイハットスタンドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。

2. ハイハットスタンドのウイングボルト(下図①)をゆるめます。

3. 下図のように三脚部を広げ、手順2でゆるめたウイングボルトを締めて固定します。

4. 下図のように連結棒をフレームの穴に差し込みます。



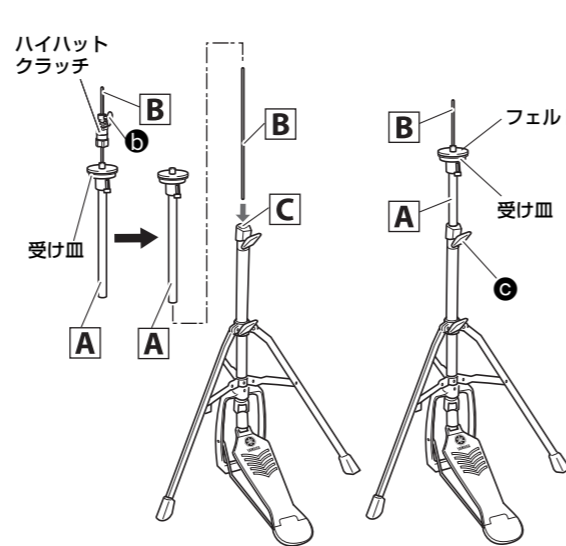
5. 右図をご覧ください。ハイハットクラッチのウイングボルト(右図②)をゆるめてハイハットクラッチを外します。
※ このハイハットクラッチは本説明書の標準的な組み立て例では使用しません。RHH135付属のハイハットクラッチを使います。

6. 上パイプ[A]からハイハットシャフト[B]を引き抜きます。

7. 手順6で引き抜いたハイハットシャフト[B]を下パイプ[C]の奥まで挿入し、先端部をねじ込みます。

8. 上パイプ[A]をハイハットシャフト[B]の上から差し込み、受け皿がハイハットシャフト[B]の中間となる位置でウイングボルト(右図③)を締めて固定します。

9. 受け皿の上に乗っているフェルトは本説明書の標準的な組み立て例では使用しませんので、外しておきます。



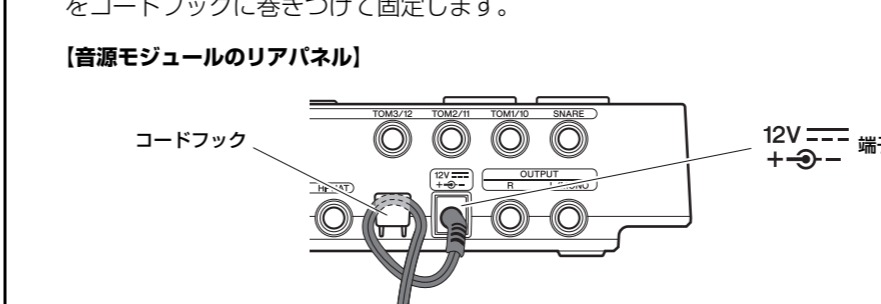
10. リアルハイハットパッドRHH135を取り付けます。

※ RHH135取扱説明書の「セッティングのしかた」をご参照ください。

6. 音源モジュールに電源アダプターを接続します。

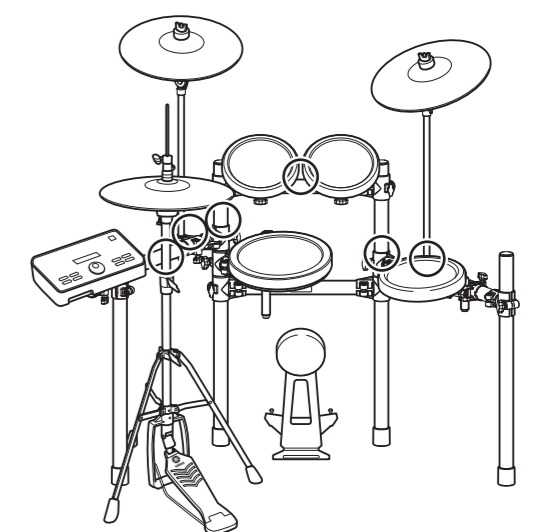
1. 電源アダプターのDCプラグを12V端子に接続します。コードの抜け落ちを防ぐためにコードをコードフックに巻きつけて固定します。

【音源モジュールのリアパネル】



2. ケーブルバンドを使い、右図の○位置を参考にケーブルをラックに沿わせて固定します。

3. 電源アダプターのもう一端のプラグを家庭用(AC100V)コンセントに接続します。



これで組み立ては完了です！音源モジュールの電源を入れて実際に音を出すなど、これ以降の手順につきましては、音源モジュールの取扱説明書をご覧ください。